



## 道政報告 2024年7月号



ホームページ



Facebook



X (Twitter)



Instagram

### 子ども政策調査特別委員会 給与・賞与・ジェンダー平等等処遇を改善し、保育士確保を!

北海道は保育士の就労実態や就労・再就労に至らない要因を詳細に分析し、保育人材確保施策のあり方検討に資することを目的に「2023年度保育士等実態調査」を行いました。道は調査結果について関係者で共有し、人材確保策の検討に活かすとしています。

**解消されていない改善要望項目**  
丸山はるみ道議の質問で給与・賞与の改善、職員の増員、事務の軽減などについて要望する割合が、2015年調査時より上昇しており、職員の増加を望む声は一割も高く、これまでの課題が解消されていないことが浮き彫りになりました。さらには保育士の求人情報

提供等を扱う北海道福祉人材センターについて、事業所や離職中の保育士の7割が知らないと答え、周知が進んでいないことも明らかになりました。丸山道議の指摘に対しては、保育士養成機関への周知をしていくと答えました。

要件を質しました。道は今年度、現場の役職者のマネジメント能力の向上を目指し、役職者を対象に集合セミナー研修を実施していくと答えました。また、丸山道議は一度やめた保育士の復職が進まない事例を挙げ、ジェンダー平等の視点に立つて保育士自身の育児との両立に見合った処遇改善のために北海道のとりくみを強めることが大切であり、同時に国への要望もさらに強化すべきと求めました。



子ども政策調査特別委員会（6月5日開催）で質問する、丸山はるみ道議

## ヒグマとの遭遇に備え、林業労働者の安全対策強化を



6月17日開催の水産林務委員会で質問する、丸山はるみ道議

林務職員は、春から秋にかけて、週の大半で森林整備事業や治山事業における現地調査、工事の監督、検査業務があり、ヒグマに遭遇する恐れがあるため、ヘルメット、鉈、熊よけ鈴、撃退スプレー等を整備していたと丸山道議の質問で明らかになりました。

丸山道議は職員の安全確保のため今後の取組の強化を求めました。道はヒグマによる人身被害は大変憂慮すべき事態として、今後は各職場に熊よけホーンの追加配備、スプレーの使用法および応急手当に関する職場研修等を実施していくとしています。

**ヒグマ対策と、林務職員の業務について**

**職員の安全が何より大事対策の強化を!**

6月3日、空知管内雨竜町にある恵岱別周辺山林において作業中の振興局の林務職員がヒグマに襲われ、左肩を縫合する大けがを負いました。丸山はるみ道議は林務職員の安全確保のため、今回の事故の対応と今後の対策について質しました。

## ～最低賃金アップで道民のくらし守ろう～

日本共産党道議団は6月11日、北海道地方最低賃金審議会に最低賃金の引き上げなどを要請しました。

毎年審議会に合わせてこの時期に行っています。

- ▽時給1500円へ早急に引き上げ
- ▽全国一律の最低賃金制度
- ▽社会保険料減免など中小企業・零細事業者への直接支援を求めました。

道議団は「全国労働組合総連合などが実施している最低生計費調査によれば、地域間格差を解消し、最低賃金を大幅に



北海道労働局に要請する共産党道議団（右端：丸山道議、右から2人目：真下道議）ら

引き上げる必要がある」と強く訴えました。



# 道議団視察「新生近江鉄道」滋賀県のリーダーシップと市町連携



説明を受ける真下（中央）丸山（右端）両道議

琵琶湖の南東部、約60kmを走る近江鉄道は、今年4月1日から県や沿線自治体でつくる「近江鉄道線管理機構」が線路や駅などを保有する一方、近江鉄道が列車の運行を担う「上下分離方式」に移行しました。

日本共産党道議団は、道外視察のため5月13日から16日、鳥取県、岡山県、滋賀県、大阪府を訪れました。滋賀県では、一般社団法人近江鉄道線管理機構が、上下分離方式で鉄道を存続させた取組を聞きました。

**1994年以降赤字が続き、滋賀県に協議を申し入れ**

西武グループ傘下の近江鉄道が県に申し入れたのは2016年。沿線市町も含め勉強会を開始。3年後に有識者も加わり地域交通再生協議会を設置。担当課長会議を月に1〜2回は実施など、協議を密に重ねました。

**アンケートは当事者である沿線住民を対象に**

地域で鉄道存続の合意を醸成するためには日常生活で利用する可能性が高い沿線住民を対象にアンケートをとる必要があると判断したと言いま



上下分離方式で運行する「新生近江鉄道」

す。また、利用の少ない区間でもつながっていることに価値があると考え、ぶつ切りにせず存続することを追求しました。事業者や行政が地域と一緒にになって鉄道存続のために知恵を出し、努力した結果の「新生近江鉄道」が住民の生活を支えています。



丸山道議は6月12日、「北の鉄道存続を求めます」が定期的に札幌駅南口で取り組む街頭宣伝に参加しました。現在工事中の函館北斗から札幌までは約212km。その8割はトンネル区間です。大量の掘削残土や巨大な岩塊の出現で工事が難航しています。

**羊蹄トンネルでは巨大な岩塊が**

除去作業に約2年半を費やした比羅夫工区の巨大な岩塊。今度は南側の有島工区でも見つかりました。

今年5月から10月に除去作業を実施する予定でしたが、現在まだ調査中で工事はこの秋からのこと。羊蹄トンネルは、この先も複数の岩塊が確認されています。

**並行在来線のバス転換を見直せ**

北海道新幹線の札幌延伸は、北海道経済の起爆剤と言われて、工事が続けられています。

しかし、開業時期がいづになるのか示されません。

さらに並行在来線のバス転換は、バスドライバーが不足しているため協議が難航しています。

並行在来線の沿線自治体の多くが、厳しい自治体財政を理由に新幹線延伸を受け入れ、できれば鉄道を残したいとしながら、より負担が少ないバス転換を選択しました。しかし今、新規のバス路線が実現できるでしょうか。バス転換を見直して、国、道を含め自治体と事業者が鉄道存続で知恵を出し合うべきではないでしょうか。

並行在来線のバス転換見直し、鉄道存続を

## ～街頭・集会で道政報告を行いました～



「明るい会」との懇談で、議会論戦の様子を報告



各集会で道政報告し交流



街頭から道政報告



2024年第二回定例会招集日に道庁前でピラ配布する丸山はるみ道議

お困りごと相談お受けします

- 月曜日～金曜日
- 午前9時30分～午後3時30分



**丸山はるみ事務所**

小樽市稲穂1-12-205  
ステーションハイツ

☎64-5591 FAX64-5592